

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 研究期間 平成21年度～平成25年度
5. 課題番号 2 1 5 3 0 9 9 5
6. 研究課題名 音楽構成要素の分解と再構築による聴音課題作成とその教育効果に関する研究
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 3 8 6 7 7 2	イトウケンイチロウ 伊藤 謙一郎	メディア学部	准教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成23年度は、前年度に完了できなかった聴音テキストの音楽構成要素別の分析、およびその分析結果のデータ化（数値化）の作業から着手した。この作業を進めた結果、前年度の分析課題数は486題にとどまっていたものが、日本の聴音テキストは541題（7冊）、フランスの聴音テキストは200題（2冊）の総計741題（9冊）の課題の構成を明らかにすることができた。目的として掲げていた1000題には及ばず、また一部のテキストは掲載されている課題数があまりに膨大で分析対象とする課題を任意に選択せざるを得なかったため、目指していた精度での分析は行えなかった。しかしながら、本研究の目的の一つである聴音課題における難易度の設定について、各テキストの傾向が分析によって具体的な数値として示されたことを考えれば、一定の信頼度をもったデータが得られたものと考えている。

上記のテキストの傾向としては、1）音楽構成要素（調性、音程、リズムなど）を複層的かつ有機的に関連させつつ、明確な学習指針をもって段階的に難易度を設定しているもの、2）難易度の設定はごく限られた音楽構成要素に依拠してなされ、学習指針が不明瞭なもの、3）難易度が示されているものの、それぞれの音楽構成要素での難易度がかなりランダムに変動しており、学習指針がほとんど見出せないもの、の大きく3つに分類できることがわかった。もちろん、この結果や判断は各テキストの価値を否定するものではない。本研究においては、学習者が無理なく段階的に聴音の能力を高め、指導者は指導すべきポイントに即した課題を適切に与えられるような教材の開発を目指していることから既存の聴音テキストの内容を把握するのは不可欠であり、テキストの多様性があることをデータによって具体的に認識できたのは有意義であった。

今後、本研究で目指す教材作成においては、どのような観点から難易度の段階を設定するかデータを再度精査した上で方針を決める必要がある。また、平成24年度からは学習者への聴音レッスン（週1回）も開始となるため、各回のレッスンでの学習者の解答状況も視野に入れつつ、聴音課題作成に向けた準備を進めたい。

10. キーワード

- (1) 聴音課題 (2) ソルフェージュ (3) フォルマシオン・ミュージカル (4) 音楽構成要素による分析
 (5) (6) (7) (8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ③やや遅れている。
(理由) 平成 22 年度に当初の研究計画より作業が遅れ、その影響が現在まで続いている。また、本来であれば学習者への聴音レッスン開始前には、与える課題が完成されていなければならないが、毎週のレッスンに合わせて作成している状況にあるため。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平易なものから難しいものまで広範囲な難易度による課題作成を考えていたが、平成 24 年度から開始するレッスンでは主に初学者や、経験者でも 1 年未満の者が中心となるため、作成課題の難易度を限定する必要性を感じている。
--

13. 研究発表（平成 2 3 年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計 (0) 件 うち査読付論文 計 (0) 件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			⋮ ⋮ ⋮	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			⋮ ⋮ ⋮	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			⋮ ⋮ ⋮	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)				

【学会発表】計（ 0 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

発表者名	発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所

【図書】計（ 0 ）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取得】計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--